

## 岡山大学 AO 入試 5 年目の現状

—AO らしさを求めて—

田中克己，上田一郎，佐竹恭介，垂水共之（岡山大学アドミッションセンター）

岡山大学では平成 18 年度入試より 5 つの学部と 1 コースで AO 入試を導入し、今春、初の卒業生を出した。AO 入試 5 年目にあたり、我々が目指す AO 入試のあるべき姿を考えたい。そこで、AO 入試はいかにあるべきかという主題を一旦横に置いておき、本学で実施している AO 入試の中から AO 入試らしいと感じる入試について考察し、どこを AO 入試らしいと感じているのかを明らかにしたい。

### 1 はじめに

岡山大学は 11 の学部と 1 コースからなる総合大学であるが、平成 17 年度入試までは、どの学部も推薦および一般（前期、後期）の選抜を行っていた。

岡山大学 AO 入試は平成 18 年度入試より 5 つの学部（理，環境理工，教育，法，薬）とマッチングプログラムコース（MP）で導入された。当初は推薦および後期入試を AO 入試に振り替える学部が多かったが、後に法学部と薬学部は後期入試を復活させた。

本稿では、5 年目を迎える本学 AO 入試について、AO らしい入試が来ているかを検証する。

### 2 AO 入試概要

#### 2.1 AO 入試 I

この選抜は大学入試センター試験を課さない AO 入試で、次の 2 学部で実施している。

##### 2.1.1 理学部

数学科（定員 3 名）と物理学科（定員 7 名）  
書類審査（自己推薦書と調査書）200 点＋小論文 400 点＋面接 400 点の計 1000 点満点。

##### 2.1.2 環境理工学部

環境数理学科（定員 5 名），環境デザイン学

科（定員 10 名），環境物質工学科（定員 7 名）

1 次選抜；書類審査 50 点

最終選抜；小論文 100 点＋面接 150 点（数理のみ 100 点）

#### 2.2 AO 入試 II

この選抜は大学入試センター試験を課す AO 入試で、次の 4 学部で実施している。

##### 2.2.1 教育学部

学校教育教員養成課程の小学校教育コース（定員 30 名）及び中学校教育コースの国語（5 名）社会（5 名）数学（5 名）理科（5 名）英語（5 名），障害児教育コース（5 名）幼児教育コース（5 名），養護教諭養成課程（10 名）

書類審査 200 点＋面接 600 点＋センター試験 900 点の計 1700 点満点。

ただし，中学校教育コースの音楽，美術，体育（定員各 5 名）は書類 300 点＋面接 800 点＋センター試験 800 点の計 1900 点満点。

さらに，中学校教員コース家庭（専門高校対象）（定員 1 名）は書類 200 点＋小論文 300 点＋面接 600 点＋センター試験 600 点の計 1700 点満点。

【資料】

2.2.2 法学部（昼間コース）

（定員 20 名）

1 次選抜；書類審査 100 点

2 次選抜；面接 200 点

最終選抜；センター試験外国語 200 点

2.2.3 理学部

化学科（定員 5 名），生物学科（定員 7 名），地球科学科（定員 5 名）

小論文 300 点＋面接 700 点＋センター試験 1000 点の計 2000 点満点

2.2.4 薬学部

薬学科（定員 7 名），創薬科学科（定員 7 名）

小論文 200 点＋面接 200 点＋センター試験 800 点の計 1200 点満点。

2.3 物理チャレンジ

理学部物理学科（定員 3 名）で実施しており，全国物理コンテスト「物理チャレンジ」の第 2 チャレンジに出場したものを原則，書類審査で合格とする選抜。

2.4 マッチングプログラムコース

（定員 16 名）

第 1 次選抜；書類審査 200 点

第 2 次審査；講義に関するレポート 400 点＋小論文 300 点＋発表及びグループ討論 200 点＋個人面接 100 点の計 1000 点満点。

3 A 学部 B 学科

各学部学科は独自のアドミッションポリシーに従い，それぞれの試験設計に工夫を凝らしている。その 1 つであるマッチングプログラムコースについては既に小島が文献（小島,2010）で報告している。

本稿では，これ以降，2 で見たとおり本学

の AO 入試ではそれぞれの学科の募集人員が多くない。データの信頼性の観点，から募集人員が 25 名を越える A 学部 B 学科の AO 入試について，その選抜の特徴について考察する。

3.1 概要

A 学部 B 学科ではセンター試験を課す AO 入試を行っている。センター試験が 900 点＋書類審査 200 点＋面接 600 点の 1700 点満点の選抜を行っている。ここで，センター試験以外の試験をまとめて個別試験と呼ぶことにする。

AO 入試の学生募集要項は 6 月中に発行され，出願は 11 月中旬。センター試験を受験後 2 週間で面接試験を本学で行う。

面接試験は，募集要項で発表されたテーマについて A4 用紙 3 枚の資料を作成し，それを用いて面接の初めに 3 分程度の発表をし，これについての質疑応答から出願者本人についての面接に移行していくという形式である。

3.2 入れ替わり率と変動係数

3.2.1 入れ替わり率

試験 E の入れ替わり率とは，もし試験 E が無ければ不合格であった者でその試験 E があったがために合格した者の全合格者に対する割合と定義する。詳しくは，文献（垂水・山本,1999）等を参照されたい。

ここで，いくつか記号を定義する。

平成 n 年度入試における個別試験の入れ替わり率を  $r_K(n)$ ，またセンター試験の入れ替わり率を  $r_C(n)$  で表すものとする。

平成 18 年度から 21 年度入試におけるそれぞれの入れ替わり率は次のとおりであった。

$$r_K(18)=19/40=0.475, \quad r_C(18)=5/40=0.125$$

$$r_K(19)=17/33=0.515, \quad r_C(19)=8/33=0.242$$

$$r_K(20)=14/31=0.452, \quad r_C(20)=6/31=0.194$$

$$r_K(21)=8/31=0.258, \quad r_C(21)=9/31=0.290$$

## 【資料】

一般に、入れ替わり率は各試験の点数の間に相関関係が小さい時には、その値が大きくなることが知られている。実際に、センター試験と個別試験の点数の関係を調べることにする。

## 3.2.2 変動係数

平成  $n$  年度入試におけるセンター試験と個別試験の点数の変動係数をそれぞれ  $CV_c(n)$  と  $CV_k(n)$  で表すことにすると、平成 18 年度から 21 年度入試にかけて；

$$\begin{aligned} CV_k(18) &= 26.546 & CV_c(18) &= 9.419 \\ CV_k(19) &= 24.464 & CV_c(19) &= 12.413 \\ CV_k(20) &= 17.933 & CV_c(20) &= 13.512 \\ CV_k(21) &= 20.468 & CV_c(21) &= 13.874 \end{aligned}$$

となっている。これからも個別試験における点数のバラツキの大きさがわかる。

## 3.3 相関係数

平成 18 年度入試における A 学部 B 学科の AO 入試におけるセンター試験と個別試験の点数をグラフにしたものである。

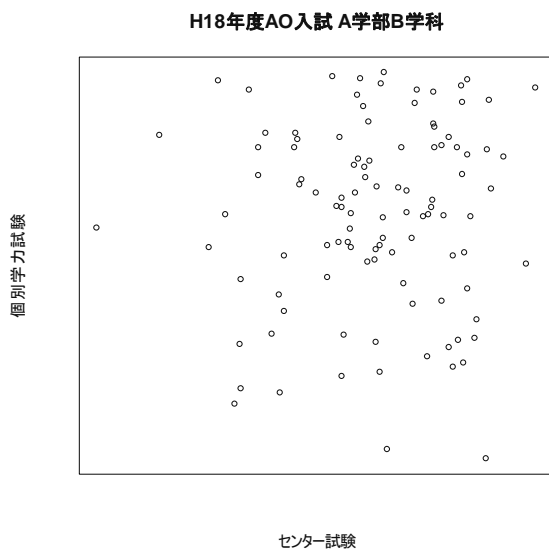


図 1 センター試験と個別試験（AO）

ここでは敢えてスケールを落としているが、相関係数は 0.050 でありセンター試験と個別試験に相関関係は無いといえる。

一方、これに対し平成 18 年度 A 学部 B 学科の一般前期入試の結果は次のようになる；

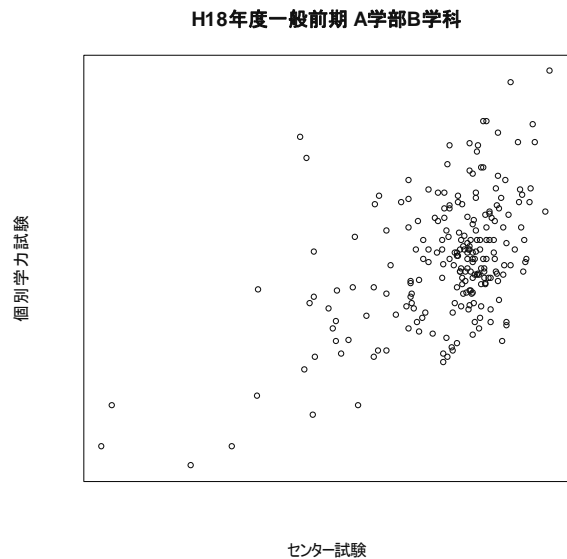


図 2 センター試験と個別試験（前期）

となり、相関係数は 0.515 となり正の相関関係がある。ちなみに、前期の個別入試は数学（文系、理系）、外国語、国語、理科（物理、化学、生物、地学）、実技（音楽、美術、体育）の中から 2 科目選択となっている。なお、19 年度以降も相関係数については大きな変化が見られなかった。

## 4 考察

本学 A 学部 B 学科の AO 入試については個別試験の入れ替わり率が極めて高い。これまで挙げたデータから、その理由は主に次の三つである。第一にセンター試験と個別試験との相関がないこと。第二に倍率が一定以上高いこと。第三に個別試験（面接と書類審査）の点数のバラツキが大きいこと。

高校訪問時に進路担当教員から「A 学部の AO 入試では、センターの点数が高い子が落ちて低い子が合格した。」という声を多く聞いた。どちらがこの学部に合っていると思うか尋ねると、大抵の場合は納得していただける。

【資料】

A学部では将来就く職業への適性を見るために、面接の得点をほぼ0から満点まで分布し、書類審査もほぼ同様の得点分布となっており、思い切った試験設計をしている。

また、入れ替わり率が大きくなる条件の一つである倍率については、実質倍率で18年度2.2倍、19年度3.6倍、20年度2.6倍、21年度2.9倍であった。

## 5 結論

本学のアドミッションセンター教員が感じるAO入試らしさとは、センター試験では測れないその学科に必要とされる固有の能力を個別試験できめ細かく測り、かつそれらが相応の重みで評価される入試ということになる。

## 参考文献

- 小島正明 (2010). 「岡山大学マッチングプログラムコースのAO入試と入学前教育」『大学入試研究ジャーナル』20,97-102.
- 垂水共之・山本義郎 (1999). 「合否入れ替わり率」柳井晴夫・前川眞一編『大学入試データの解析——理論と応用』現代数学社, 62-74.